

平成24年度 教育事務事業点検評価報告書

平成25年11月
宮古島市教育委員会

目 次

| | | |
|-------------------|--------------------------|-------------|
| 事務事業の点検評価書発行にあたって | ・・・・・・・・ | 1 |
| 1. 点検評価について | | |
| (1) 点検評価の趣旨 | ・・・・・・・・ | 2 |
| (2) 本市の主要施策 | | |
| (3) 点検・評価の方法 | | |
| 2. 事務事業評価一覧表 | ・・・・・・・・ | 3 |
| 事務事業点検評価書 | | |
| 1. I-1 | 生涯学習フェスティバル事業 | ・・・・・・・・ 4 |
| 2. I-2 | 生涯学習リーダーバンク事業 | ・・・・・・・・ 5 |
| 3. II-1 | 学力向上対策事業 | ・・・・・・・・ 6 |
| 4. II-2 | フューチャースクール推進事業 | ・・・・・・・・ 7 |
| 5. II-3 | スクールソーシャルワーカー活用事業 | ・・・・・・・・ 8 |
| 6. II-4 | 外国青年招致事業 | ・・・・・・・・ 9 |
| 7. III-1 | 教育の日市民大会「宮古島市の教育を語る市民大会」 | ・・・・・・・・ 10 |
| 8. IV-1 | 宮古島市夢実現助成事業 | ・・・・・・・・ 11 |
| 9. IV-2 | 成人式事業 | ・・・・・・・・ 12 |
| 10. IV-3 | 学校支援地域本部事業 | ・・・・・・・・ 13 |
| 11. IV-4 | 交流事業 | ・・・・・・・・ 14 |
| 12. IV-5 | 宮古島市こども劇団設立事業 | ・・・・・・・・ 16 |
| 13. V-1 | 公民館運営事業 | ・・・・・・・・ 17 |
| 14. V-2 | 図書館の基本サービス・行事の充実 | ・・・・・・・・ 19 |
| 15. VI-1 | 各種スポーツ教室事業 | ・・・・・・・・ 21 |
| 16. VII-1 | 文化財保護活動事業 | ・・・・・・・・ 22 |
| 17. VII-2 | 市史編さん事業 | ・・・・・・・・ 23 |
| 18. VII-3 | 企画展 | ・・・・・・・・ 24 |
| 19. VII-4 | 収蔵品台帳整備（データベース化） | ・・・・・・・・ 25 |
| 20. VIII-1 | 宮古島市教育委員会の活動 | ・・・・・・・・ 26 |
| 21. VIII-2 | 教育委員会広報誌発行 | ・・・・・・・・ 27 |

事務事業の点検評価書発行にあたって

平成19年6月27日に公布（平成20年4月1日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」第27条において、新たに教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行状況について、外部の学識経験者の知見を活用し、点検及び評価を行い、その結果について、議会に提出するとともに、広く公表することとされました。

宮古島市教育委員会では、同法に規定する教育行政事務事業の点検評価をするにあたり、教育に関し学識経験者の意見を聴取する形の有識者会議を開催し、教育主要施策8項目のうちから21事務事業について、評価をいただきました。

教育委員会としましては、この評価を本市の教育行政に役立てつつ、さらに、市民からの情報、ニーズも幅広く収集し、事業の活性化と充実について、なお一層の努力を傾注するものであります。

平成25年11月

宮古島市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1. 点検評価について

(1) 点検評価の趣旨

本市においては、「個性豊かな文化をはぐくみ、一人ひとりが輝く島」をめざし、教育行政の指針となる教育施策を策定しました。その施策項目を基本とした各事業を展開し、その成果について点検評価を実施しました。この事務事業評価については、より良い教育環境づくりを推進するため、次年度の施策展開に活用してまいります。

なお、この事務事業点検評価は平成24年度を対象とし、教育委員会の機能充実の視点から抽出いたしました。

(2) 本市の主要施策

- | | |
|-------------------|---|
| I 「生涯学習の推進」 | 潤いと生きがいのある生涯学習社会をめざして |
| II 「学校教育の充実」 | 生きる力を育てる学校教育の充実 |
| III 「家庭教育の充実」 | 保護者が子どもの教育により密接に関わる事をめざして |
| IV 「青少年の健全育成」 | 豊かな心を持ち、夢・実行力のある青少年の育成をめざして |
| V 「社会教育の充実」 | 家庭・地域の教育機能の活性化をめざして |
| VI 「スポーツの振興」 | 市民が気軽にスポーツに親しむ環境づくりと健康の保持増進及び体力の向上をめざして |
| VII 「文化の振興」 | 豊かな感性を育む郷土文化の保存・継承をめざして |
| VIII 「教育行政の充実・強化」 | 教育の使命を尊重する開かれた教育行政を目指して |

(3) 点検・評価の方法

事務事業の点検・評価にあたっては、「必要性」「効率性」「有効性」を基準として踏まえ「A＝拡充」「B＝継続」「C＝改善」「D＝廃止」「E＝完了」の五段階で、内部評価を行い、さらに有識者による点検・評価を行った。

2. 事務事業評価一覧表

| 評価書 番号 | 所 管 課 | 事 務 事 業 名 | 評価 |
|-----------|---------|--------------------------|--------|
| I-1 | 生涯学習振興課 | 生涯学習フェスティバル事業 | B (継続) |
| I-2 | 生涯学習振興課 | 生涯学習リーダーバンク事業 | A (拡充) |
| II-1 | 学校教育課 | 学力向上対策事業 | A (拡充) |
| II-2 | 学校教育課 | フューチャースクール推進事業 | A (拡充) |
| II-3 | 学校教育課 | スクールソーシャルワーカー活用事業 | A (拡充) |
| II-4 | 学校教育課 | 外国青年招致事業 | A (拡充) |
| III-1 | 教育総務課 | 教育の日市民大会「宮古島市の教育を語る市民大会」 | C (改善) |
| IV-1 | 教育総務課 | 宮古島市夢実現助成事業 | C (改善) |
| IV-2 | 伊良部分室 | 成人式事業 | B (継続) |
| IV-3 | 生涯学習振興課 | 学校支援地域本部事業 | A (拡充) |
| IV-4 | 中央公民館 | 交流事業 | B (継続) |
| IV-5 | 文化ホール | 宮古島市こども劇団設立事業 | A (拡充) |
| V-1 | 中央公民館 | 公民館運営事業 | B (継続) |
| V-2 | 平良図書館 | 図書館の基本サービス・行事の充実 | A (拡充) |
| VI-1 | 市民スポーツ課 | 各種スポーツ教室事業 | A (拡充) |
| VII-1 | 生涯学習振興課 | 文化財保護活動事業 | A (拡充) |
| VII-2 | 生涯学習振興課 | 市史編さん事業 | A (拡充) |
| VII-3 | 総合博物館 | 企画展 | A (拡充) |
| VII-4 | 総合博物館 | 収蔵品台帳整備 (データベース化) | A (拡充) |
| VIII-1 | 教育総務課 | 宮古島市教育委員会の活動 | A (拡充) |
| VIII-2 | 教育総務課 | 教育委員会広報誌発行 | A (拡充) |

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 生涯学習振興課

【主要施策】

I. 生涯学習の推進

【事務事業名】

「生涯学習フェスティバル」事業

【目的・計画概要等】

目的：

広く市民に対し、学習活動の成果発表の場や学習情報を提供することにより、市民一人ひとりの学習意欲を高めるとともに学習活動への参加を促進し「学び育てる 文化のまち みやーく」をテーマに生涯学習の一層の振興を図る。

計画概要：

- ①公民館利用者や社会教育団体などによる学習活動の展示や舞台発表を行い、生涯学習の普及・啓発活動を行う。
- ②来場者が楽しみながら生涯学習に対する理解を深められるよう、体験・実演・即売コーナーを設置する。
- ③社会教育活動に対し功績のあった個人、団体を表彰する。
- ④生涯学習に関するテーマで記念講演を行う。

予算額： 701,000円

【実施状況】

| | | |
|---|-----------|-----------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：平成24年11月17日～18日 宮古島市中央公民館 ・社会教育功労表彰：1個人 ・舞台発表：社会教育団体20団体・179名／公民館関係:12団体・165名 ・野外ステージ：12グループ ・活動展示：公民館6館／社会教育団体12団体 ・体験・実験コーナー：理科実験・ロボット体験・ミニ四駆作成 キッズゲーム・読み聞かせ・軽スポーツ・セグウェイ体験試乗 癒やしの空間・おはなし玉手箱 ・記念講演：平成24年11月17日 講師 フリーアナウンサー 柳 卓 演題「言葉のもつ力」 参加者 1,300名 | 決算額（財源内訳） | |
| | 国・県 | 円 |
| | 地方債 | 円 |
| | その他 | 円 |
| | 一般財源 | 480,000 円 |
| | 計 | 480,000 円 |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|---|----|---|
| 必要性 | 行政や各団体が主催する講座等は、生涯学習の場として重要な位置を占め市民の関心も高い。よって、その総体的な活動発表の場として等事業は有効である。 | B | 総合評価：B（継続） 特に多くの親子連れのご参加があり、子ども達が体験コーナーやキッズコーナーなどに目を輝かせ夢中になっていたのが印象的でした。今後も市民のご意見を伺いながら一層市民に生涯学習の楽しさを伝えられるように努力致します。 |
| 効率性 | 来場者の動員を図り、費用対効果を高めることが課題だったが、今回は特に講演会に大量動員でき、大変良かった。 | B | |
| 有効性 | 創意工夫された活動展や舞台発表、様々な実演等により、来場者は生涯学習活動に対する理解を深めることが出来た。 | B | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|---|-----------------------|
| 生涯学習フェスティバルは、文字通り子供から大人まで幅広く、市民一人ひとりの学習意欲を高めることを目的としており、市民参加型の活動展や舞台発表、子ども達の体験コーナーやキッズコーナー等、今後も継続発展させ生涯学習の楽しさを伝えていく必要がある。 | 総合評価 B （継続） |
|---|-----------------------|

【外部評価】

| | |
|---|-----------------------|
| 本事業の目的にもありますように、市民一人ひとりの学習意欲を高めるとともに学習活動への参加を促進し、生涯学習の一層の振興を図るという意味では、来場者の増員は良かったと思う。来場者の皆さんに、楽しみながら学べるという事をアピールできる様、体験・実演コーナーの充実を図ってもらいたい。 | 総合評価 B （継続） |
|---|-----------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 生涯学習振興課

【主要施策】

I. 生涯学習の推進

【事務事業名】

「生涯学習リーダーバンク」事業

【目的・計画概要等】

○生涯学習時代に対応すると共に、市民はもとより青少年たちが充実した活動を行うための支援処置として指導者の登録を行い、学校及び社会教育関係団体等の要請に応じて適切な指導者を紹介する。

* 講師登録者数 127名

* 予算額 306,000円

【実施状況】

| | | |
|--|-----------|----------|
| ○生涯学習指導者の登録・指導者リストの作成・周知を行いリーダーバンク活用の事前・事後報告を受けて、指導者に講師謝礼金を支払う。 * 実績として31回の指導者派遣を行い、93千円の支出を行った。 ・硬筆講座、踊り指導、みそ作り講師、引き踊り指導、はりこで作る変身マスク講師、鳩まぶし指導、プラ鉢にアート講師 | 決算額（財源内訳） | |
| | 国・県 | 円 |
| | 地方債 | 円 |
| | その他 | 円 |
| | 一般財源 | 93,000 円 |
| | 計 | 93,000 円 |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|--|----|---|
| 必要性 | 市民が充実した活動を行うためには、指導者への支援が求められている。地域団体活動のリーダーに対する市民の期待は高い。 | A | 総合評価：A（拡充） 生涯学習リーダーバンク事業については、各小中学校・社会教育団体・公民館等サークルにおいて多く利用されているが、時代の多様化により、質の高い情報サービスが必要となっている。 |
| 効率性 | リーダーバンク冊子や市のホームページを通して、広く市民に対してPRし、情報の提供を行う。 | A | |
| 有効性 | 社会教育団体・公民館及び学校において、指導者の派遣要請は多数あり適切な指導者を紹介でき、いろいろな講座に対応できた。 | A | |

* 評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 生涯学習においては、地域団体活動のリーダーに対する期待は大きく、リーダーバンク事業は重要である。各学校や、社会教育団体、各種サークル活動等での利用度は高く今後も拡充していく必要がある。 | 総合評価 A (拡充) |
|--|-------------------|

【外部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 学校及び各種社会団体が、充実した活動を行うためには、いろいろな分野において、指導者への支援が求められていると思います。リーダーバンク冊子の配布等で情報の提供を広げてほしいと思います。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

Ⅱ. 学校教育の充実

【事務事業名】

学力向上対策事業

【目的・計画概要等】

宮古島市立各学校の幼児・児童・生徒一人一人に確かな学力などの生きる力をはぐくむことを目標に学校、家庭、地域との連携を基に、学力向上対策の事業を推進する。

【実施状況】

| | | |
|---|-----------|--------------|
| 1. 宮古島市学力向上対策委員会および実践成果報告会の実施。 318,000円 | 決算額（財源内訳） | |
| 2. 市単独標準学力等調査（5月実施） 基礎・基本の学習内容を中心に児童・生徒の学習到達度を確かめ、指導改善に役立てた。 2,735,366円 | 国・県 | 円 |
| 3. 学力向上対補助金交付 幼稚園・小・中学校へ補助金を交付することで、一人一人の確かな学力を育て、校（園）内の体制づくりの確立に役立てた。 また、確かな学力の定着および保護者負担の軽減を目的に、各種検定料の補助を行った。 7,343,500円 | 地方債 | 円 |
| 4. 総合的学習支援補助金交付 2,410,000円 | その他 | 円 |
| 5. 地域発表会補助金交付 0円 | 一般財源 | 14,718,906 円 |
| 6. 国・県・市研究指定校補助金交付 900,000円 平良第一小学校、北小学校、鏡原中学校 | 計 | 14,718,906 円 |

【担当者説明】

| 区 分 | 説 明 | 評 価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|--|-----|--|
| 必要性 | 標準学力検査等による児童生徒の実態調査は本市の学力向上対策の重要な事業で各学校からの要望も高い。今後とも充実強化する必要がある。 | A | 総合評価：A（拡充） 標準学力検査を実施することで、各学校における児童生徒の実態や変容を把握することができる。各学校においては、それに基づき校内での指導体制を確立し学習指導に役立てている。今後も学校に対してアンケート調査を行い、諸検査の効果的な活用方法を考えていきたい。また、検定料補助金事業は、多くの児童生徒が漢字検定、数学検定、英語検定にチャレンジし、学力向上につながる取り組みとして期待が大きい。 |
| 効率性 | 現在の事業を継続しながら、各学校にアンケート調査を行い、ニーズに応じた学力向上対策事業を実施していきたい。 | A | |
| 有効性 | 全国学力・学習状況調査の結果から本市の児童生徒は県平均とほぼ同じである。今後は、本市の児童生徒の課題把握を十分行い効果的な事業を推進したい。 | A | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 本市の重要課題である学力向上事業である。各学校からも拡充継続の要望もあり、教育委員会としても更に拡充し事業の充実を図っていかねばならないと考えている。そのためにも、検査結果等の分析結果を教育課程編成への活かし方や補助金等の計画的な予算編成も含めて事業推進の充実に向けた取り組みの工夫をしていきたい。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

【外部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 将来の社会形成者の育成は、国を挙げて取り組む事が最重要である。そして、大切なことは「地域の子どもは地域が責任を持って育てる」ことである。全国学力調査の結果から分かるように、地域の影響が子ども達に直に及ぼしている。先進地との連携も取り入れ、今こそ一人一人の確かな学力育成に学校・家庭・地域社会の総力を傾注するときだと思う。当課の熱心な取り組みに感謝するとともに、課題分析を吟味し、行政組織をあげて更なる取り組み工夫で本市の子どもの学力向上にご尽力いただきたい。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

Ⅱ. 学校教育の充実

【事務事業名】

フューチャースクール推進事業

【目的・計画概要等】

本事業は、全生徒・教員1人1台のタブレットPC、全普通教室・理科室のインタラクティブ・ホワイトボードと校舎全域で利用可能な無線LANを設置し、中学校現場における情報通信技術面を中心とした課題を抽出・分析を行うための実証研究を実施する。

実証校（下地中学校）においては、調査研究の指定研究テーマ以外に独自テーマとして、「言語活動の充実を図る授業の工夫・改善～ICT機器の効果的活用を通して～」を掲げ、ICT機器の良さを生かした「楽しい授業」「わかる授業」の構築を目指す。

平成23年度～平成25年度の3ヶ年は総務省・文部科学省の委託事業。平成26、27年度は市単独事業で研究継続を図る。

【実施状況】

| | | |
|--|--------------|--------------|
| 1.実証校:宮古島市立下地中学校(1年36名、2年44名、3年37名 計117名) 2.本事業の推進にあたり、学校現場でのICTの効果的な活用をサポートするICT支援員を専任で1名配置し、ICT環境全般に関する支援業務、教材作成支援、報告書作成支援等を行うことで、学校におけるICT利活用の推進を図った。 3.早稲田大学の三友仁志教授をプロジェクトリーダーとする地域協議会を6回開催し、実証校への指導・助言を行った。 | 決算額（財源内訳） | |
| | 国・県 | 32,735,560 円 |
| | 地方債 | 円 |
| | その他 | 円 |
| | 一般財源 | 円 |
| 計 | 32,735,560 円 | |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|---|----|---|
| 必要性 | 社会の情報化が急速に進展している中で、情報や情報手段を主体的に活用する能力の育成が重要となっていることから、教育分野でのICT利活用の推進は必要。 | A | 総合評価：A（拡充） 情報化が進む社会情勢の流れにあわせ、平成20年3月に告示された小中学校「新学習指導要領」でも情報化への対応が強化されている。 宮古島市立小中学校の情報化においては、ICT環境整備は飛躍的に進んでいるが、その活用は道半ばであり、全教員のICT活用指導力の向上と教育活動へのICTの活用の定着を図ることが本市の教育情報化を進めるうえで大きな課題の一つである。 本事業の推進はこうした課題の解消を図るとともに、「情報教育の充実」、「校務の情報化」につながる取り組みとして期待が大きいところである。 |
| 効率性 | 総務省・文部科学省の委託事業の中で、様々な課題を抽出し分析することにより、平成26年度以降、市単独事業として効率的に進めていく必要がある。 | A | |
| 有効性 | ICT環境を日常的に利活用するようになり、ICT環境の特性を生かした授業が多く見られた。 | A | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 本事業は教育の情報化をどのように進めていくかという検証事業で学校教育のこれからのあり方を研究している事業である。このことから「校務支援システムの効率的な活用」と「情報教育の充実」という視点からもさらなる充実が望まれる。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

【外部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 科学の進展、情報・国際化社会の急激な変化に活躍する次代の人材育成に取り組む本事業は当を得ており、各校で充実させていただきたい。本事業は生徒一人一人を大切に、研究目的を具体的かつ機器操作の技術面や進捗・マスターなど徹底した研究指導を行い確実な成果を推し進めている。更に研究指定後も継続研究を計画し、確かなICT教育の充実に取り組んでいる事は大変立派。ICTを利活用した負の問題が大きな社会問題化している現実、当然ICTのマナー、価値観の徹底教育も必要不可欠である。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

Ⅱ. 学校教育の充実

【事務事業名】

スクールソーシャルワーカー活用事業

【目的・計画概要等】

問題を抱える幼児児童生徒に対して、関係機関・地域資源を活用し、問題の改善を図る業務内容。
 家族や学校から相談を受け、当該児童生徒が置かれた状況に応じて、福祉・保健・医療等の関係機関との連携や、学校や関係機関を交えてのケース会議を開催したりするなど、多様な支援方法を用いて、問題解決を図る。
 具体的には、教育相談が必要な場合は、市の教育相談室、まていだ教室、またはスクールカウンセラーにつなぐことと、保護者の経済問題には、生活保護の受給に関するアドバイスや手続きの助言などを行う。

【実施状況】

| | | | | | | | | | | |
|--|-------------|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|--|
| 平成24年度の支援状況として、①不登校、②登校しぶり、③いじめ、④暴力行為、⑤児童虐待(疑い)、⑥非行不良行為、⑦家庭環境問題、⑧心身の健康及び保健に関する問題(心因性)等へ、学校・福祉・医療等各関係機関との情報・行動連携し改善を図った。 (1) 平成24年度支援学校数 <table border="1" style="display: inline-table; margin-left: 20px;"> <tr><td>小学校</td><td>11校</td></tr> <tr><td>中学校</td><td>12校</td></tr> </table> (2) 平成24年度支援対象児童生徒数 <table border="1" style="display: inline-table; margin-left: 20px;"> <tr><td>小学校</td><td>37人</td></tr> <tr><td>中学校</td><td>33人</td></tr> </table> | 小学校 | 11校 | 中学校 | 12校 | 小学校 | 37人 | 中学校 | 33人 | 決算額(財源内訳) | |
| | 小学校 | 11校 | | | | | | | | |
| | 中学校 | 12校 | | | | | | | | |
| | 小学校 | 37人 | | | | | | | | |
| | 中学校 | 33人 | | | | | | | | |
| | 国・県 | 4,351,721 円 | | | | | | | | |
| | 地方債 | 円 | | | | | | | | |
| その他 | 円 | | | | | | | | | |
| 一般財源 | 1,666,340 円 | | | | | | | | | |
| 計 | 6,018,061 円 | | | | | | | | | |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者(主管課)評価・コメント |
|-----|---|----|--|
| 必要性 | 問題を抱える児童生徒及び家庭は年々増加、多種・多様化しており、支援のニーズは高い。 | A | 総合評価：A(拡充) 年々問題を抱える児童生徒の支援内容が多様化し、特に家庭問題での福祉・保健・医療等関係機関との連携が重要となっている。 【成果】関係機関(児童家庭課、児童相談所、警察署、病院等)とのケース会議が開催され、支援体制の構築が強化されている。 【課題】現在4名体制で業務を行っているが、相談件数が多く、特に離島である伊良部地区の支援が十分にできていないことが挙げられる。また、組織内における連携及び体制の確立を行い、職務の特質を生かした支援の展開が必要である。 |
| 効率性 | 派遣型の体制で各学校からの支援要請により、生徒指導主任を中心とした行動連携を図っている。 | A | |
| 有効性 | 状況に応じて、福祉・保健・医療等の関係機関との連携や、学校、関係機関を交えてのケース会議を開催し多様な問題の解決を図っている。 | A | |

*評価及び総合評価 (A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了)

【内部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 担当者のコメントからも分かるが、SSWの職務が多様化する社会の中で重要になってきている。相談件数が増えていく中で十分に対応できない地区があるなどさらなる拡充が必要になっている。 | 総合評価 A (拡充) |
|--|-------------------|

【外部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 地域社会の急激な変化、個々の価値観、経済状況等々が子どもたちを被い、様々な問題を抱える子どもたちに懸命に対応していただき感謝します。子どもは国の宝であり、親を始めみんながスムーズな成長を願い育てている。しかし、歪みを受けている場合がある。そのための事前学習会(妊婦夫婦や乳幼児期の子を持つ親の支援など)も極めて大切だろう。健全な社会支援体制で早期治療、個性尊重の教育充実のうえからスクールソーシャルワーカーの役割は極めて重要であり、増員が望まれる。ご尽力いただきたい。 | 総合評価 A (拡充) |
|--|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

Ⅱ. 学校教育の充実

【事務事業名】

外国青年招致事業

【目的・計画概要等】

国際理解教育や外国語教育の推進を図るため、小・中学校に外国語指導助手を配置する。

小学校（20校） 3名

中学校（16校） 2名

【実施状況】

| | | |
|--|--------------|--------------|
| <p>平成24年度は5名の外国語指導助手を配置し、小学校20校、中学校16校に対し1人あたり6校または7校の学校訪問を行った。</p> <p>小学校については5、6年生の外国語活動の必修化に伴い、外国語の授業を中心として授業、教材作成の補助を行い、低中学年に対しても国際理解教育として文化の紹介などの授業を行った。また、中学校については英語の授業、教材作成の補助を行った。</p> <p>夏休み期間中には中学生英語キャンプの講師や英語弁論大会の指導助手として、授業以外の国際理解・英語教育の活動にも参加している。</p> <p>出身国：アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド・フィジー2名 年間訪問配置日数：1人あたり192日間</p> | 決算額（財源内訳） | |
| | 国・県 | 円 |
| | 地方債 | 円 |
| | その他 | 円 |
| | 一般財源 | 23,774,356 円 |
| 計 | 23,774,356 円 | |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|---|----|--|
| 必要性 | 新学習指導要領の小学校外国語活動の新設、中学校外国語の授業時数の増加等に伴い、各学校からの要望も高い。今後とも充実強化する必要がある。 | A | <p>総合評価：A（拡充）</p> <p>学校においては、外国語指導助手の活用により、小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、コミュニケーションの手段としての外国語（英語）に慣れ親しませたり、コミュニケーションを図る楽しさを体験させる活動を通して、中学校英語教育との円滑な接続と学びの連続性を踏まえたコミュニケーション能力の育成を充実させることが図られている。また、外国語指導助手との積極的な交流などを通して、学習意欲の向上が図られ、学力向上につながる事業として期待と効果が大きい。</p> |
| 効率性 | 国際化の視点に立ち、広い視野を持ち、異なる文化を持った人々とともに協調して生きていく資質や能力等が児童生徒に育成されている。 | A | |
| 有効性 | 外国語指導助手を活用した指導方法を工夫することで、児童生徒の発達段階に応じたコミュニケーション能力の素地や基礎が培われている。 | A | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|--|-----------|
| <p>学校教育活動ではコミュニケーション能力は必須で、各学校からは「ALT派遣日数を増やして欲しい」等の要望も多く、今後とも充実強化を図っていく必要がある。</p> | 総合評価 |
| | A (拡充) |

【外部評価】

| | |
|---|-----------|
| <p>国や県のプログラムに則した国際化社会に生きる子どもたちの外国語教育を重要視した当局のご尽力に感謝申し上げます。財政や生徒数（小規模校）によるALTの役半減（前年比）は週あたり1時間もALTの活用が出来ない学校・学級が出てくる。等しく教育を受ける中において格差が生じてはならない。基礎学力向上や英語立県の数値目標及び制度に沿った教育を進めるうえからALTの増員は是非必要である。</p> | 総合評価 |
| | A (拡充) |

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育総務課

【主要施策】

Ⅲ 家庭教育の充実

【事務事業名】

教育の日市民大会 「宮古島の教育を語る市民大会」

【目的・計画概要等】

教育に対する市民の関心と理解を一層深めると共に、家庭学校及び地域社会の連携の下に市民全体で教育に関する取り組みを推進し、もって本市教育の充実及び発展を図るため、宮古島市教育の日を定める要綱により2月の第3日曜日に、教育の日について啓発を行うと共に、教育の日にふさわしい事業として「宮古島の教育を語る市民大会」を開催する。

【実施状況】

| | | |
|--|-----------|-----------|
| 宮古島の教育を語る市民大会 ・教育の日表彰（小学生3名、高校生1名、社会人2名） 表彰者は次年度の宮古島市夢実現助成事業の対象者 ・教育の日標語（応募総数56点 小学校15、中学校18、高校一般23） 最優秀各1点の合計3点、優秀各2点の合計6点が入賞 ・講話「本市の学力向上対策について」 学校教育課指導主事 ・公開フリートーク「現役大学生が語る進路選択と学生生活」 本市出身の現役大学生4名、地元中学生2名 | 決算額（財源内訳） | |
| | 国・県 | 円 |
| | 地方債 | 円 |
| | その他 | 344,000 円 |
| | 一般財源 | 3,142 円 |
| | 計 | 347,142 円 |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|-----------------------------------|----|--|
| 必要性 | 地域社会への啓発が、人材の育成と生涯学習の振興に寄与する。 | A | 総合評価：C（改善） 本事業は、人材育成と生きがいある生涯学習社会の実現を目指し、内外に広くPRすることで地域社会へ啓発を促す事業である。継続して実施することで宮古島の発展を推進していくものとする。 現状は、一般参加が少なく、効率・有効性を高めるために改善が必要である。教育の日表彰については、より重みのある賞として、表彰のあり方を工夫する必要がある。 |
| 効率性 | 啓発事業として、時期・対象とも適切であり、相当の効果を期待できる。 | C | |
| 有効性 | 教育に対する関心は高まり、継続実施により理解を深めている。 | C | |

*評価及び総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

| | |
|--|-------------------|
| これまでの取り組みでは一般市民の参加が少なく、広く市民への啓発活動としては担当者コメントにもあるように改善の必要性があると考えられる。広く市民の大会として教育を考える日としての取り組みにするためには多方面からの視点でアイデアや工夫が必要である。 | 総合評価 C (改善) |
|--|-------------------|

【外部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 島をあげて、島を守り発展させる大切な事業である。宮古島はもともと教育熱心・あららがま精神の自己向上心の高いところである。豊かな時代の発展に伴いぬるま湯に浸かり価値観の多様化した今、市民大会時の人集めは大変ご苦労である。不易の大切な部分に視点をあてながら、生涯学習とリンクさせ個人及び地域活動、先進地の状況や著名講師の招聘、動員制など広く身近でインパクトが強く、イベント性の高い開催工夫は言うまでもないだろう。 | 総合評価 C (改善) |
|--|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育総務課

【主要施策】

IV. 青少年の健全育成 / I. 生涯学習の推進

【事務事業名】

宮古島市夢実現助成事業

【目的・計画概要等】

【目的】

宮古島市の児童生徒の人材育成及び教育指導者等の資質向上を図ることを目的に、宮古島市教育の日表彰規程に基づき表彰された者を対象に助成を行う。

【計画概要等】

宮古島市教育の日表彰規程に基づき表彰された者を対象に助成を行う。（小学生1名、中学生1名、高校生1名、学校関係職員1名、社会教育関係1名と、児童生徒引率の保護者各1名は助成対象）

【実施状況】

| | | 決算額（財源内訳） | |
|-------------------|-------------|-----------|-------------|
| | | 国・県 | 円 |
| ○小学生及び保護者（実施時中学生） | 600,000 円 | 地方債 | 円 |
| ○中学生及び保護者（実施時高校生） | 473,840 円 | その他 | 円 |
| ○高校生及び保護者 | 345,844 円 | 一般財源 | 2,019,684 円 |
| ○学校関係職員 | 300,000 円 | 計 | 2,019,684 円 |
| ○社会教育関係 | 300,000 円 | | |
| | 2,019,684 円 | | |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|-------------------------------|----|---|
| 必要性 | 地域社会の発展は、教育の充実、将来を担う人材の育成にある。 | B | 総合評価：B（継続） 助成事業を実施することで、研修の機会が与えられ、人材育成と教育指導者の資質向上につながっていく。事業の周知を図り、継続実施による更なる事業充実が、本市の教育の発展に寄与するものと考えられる。人材育成の観点から、効果的、効率的な事業内容になるよう研修内容を工夫していく必要がある。 |
| 効率性 | 人材育成及び教育指導者の資質向上につながっている | C | |
| 有効性 | 事業の認知により、更なる効果が期待できる。 | C | |

* 評価及び総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 本助成事業のねらいに沿った研修内容の申請が少ないように思われる。十分な改善の視点を明確にして市民が関心をもち、本事業に積極的に応募できる事業にしていきたい。 | 総合評価 C (改善) |
|--|-------------------|

【外部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 本事業は始まったばかりの事業で、市の良き人材の発掘に有効的であり、継続事業のなかで研修内容の積み重ねは市民の共有制の高いものにつながり、子どもたちの意欲を引き出し、本市の活性化と資源の開発に重要な別名良き奨学制度でもある。始まったばかりで試行錯誤することもあるだろうが、市民に浸透する広報の工夫などで魅力ある事業に位置づけるうえからは是非目的達成に努めていただきたい。 | 総合評価 C (改善) |
|--|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 伊良部分室

【主要施策】

IV 青少年の健全育成

【事務事業名】

成人式事業

【目的・計画概要等】

目的：晴れて成人の仲間入りをする若者たちの輝かしい門出にあたり、社会人としての自覚と責任をもって活躍することを期待し、祝福し激励する。

事業計画：①対象者：伊良部・佐良浜地区成人者（80名）
 ②日時：平成25年1月5日（土） 受付：午後13：15 式典：午後14：00
 ③式典：オープニング（とうがにあやぐ・湧川絢子 ほか1名）
 第一部（開式のことば・式辞・祝辞・祝電披露・誓いのことば・閉式のことば）
 第二部（祝賀会：地域づくり課）
 ④記念撮影：成人者全員

【実施状況】

| | | |
|---|-----------|----------|
| 平成24年度の伊良部地区成人式は、新成人80人（男44人・女36人）が晴れて大人の仲間入りし、保護者・来賓者から祝福を受けた。 式典は午後2時から始まり、市長の式辞、市議会議員佐久本洋介氏の祝辞、成人代表が感謝と今後の抱負を述べた。 また、伊良部地域づくり課主催のもと、祝賀会があり祝福された。 | 決算額（財源内訳） | |
| | 国・県 | 円 |
| | 地方債 | 円 |
| | その他 | 円 |
| | 一般財源 | 40,000 円 |
| | 計 | 40,000 円 |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|-------------------------------------|----|---|
| 必要性 | 事前に式典日時について問い合わせが多く関心が高い。 市主催は妥当 | B | 総合評価：B（継続） 平成24年度の成人式は、新成人80人で全員が出席（100%）し、日程どおり開催できた。伊良部地区の成人式は、関係者から好評を受けた。 地域づくり課主催で、祝賀会もあり祝福した。祝賀会の内容を検討する意見もありましたが、式典は地域で継続すべきと多くの声を聞きました。 |
| 効率性 | 日時・内容的に効率性は高い。 | B | |
| 有効性 | 新成人者の式典参加率が高く、効果は得られてる。 | B | |

* 評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 伊良部地区では、合併後も引き続き地元で成人式典が開催されてきており、生まれ育った地域で成人の喜びを分かち合うことができることは、非常に有意義である。今後も地元で開催し、地域住民との交流を深めることが、伊良部地区の活性化に繋がるものと期待される。 | 総合評価 B (継続) |
|--|-------------------|

【外部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 新成人になった皆さんを地域をあげて祝福することは、社会人としての自覚と責任を促す意味でも重要であり、地域住民との交流の場としても島に対する思いを育むきっかけとしても有効な事業だと考えます。今後も伊良部地区地域づくり協議会と連携し、成人式を迎える皆さんの思いも取り入れながら継続して頂きたい。 | 総合評価 B (継続) |
|---|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 生涯学習振興課

【主要施策】

IV. 青少年の健全育成

【事務事業名】

「学校支援地域本部事業」

【目的・計画概要等】

目的： 学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を自覚し、地域全体で教育に取り組む体制づくりをめざす。

計画概要： 学校と地域ボランティアの仲立ちとなるコーディネーターを配置し、学校支援（学習支援活動、部活動指導、環境整備、登下校安全確保等）を実施する事業。
学校教育の充実や生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上が図られる。

予算額： 2,923,000円

【実施状況】

| | | |
|---|-----------|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 平良中校区学校支援地域本部（平良中学校、平良第一小学校、南小学校）読み聞かせ、水泳事業補助、授業サポート、環境整備、朝の交通安全指導十五夜シーシャガウガウの行事、放課後補習プリント丸付け、琉球大学生による離島支援プロジェクト交流会・進路相談。 佐良浜中校区学校支援地域本部（佐良浜中学校、佐良浜小学校）遠足や郊外学習時の大型バスの運転、道徳授業でのゲストティーチャー踊り指導、読み聞かせ、史跡めぐりの講師、校内研修での講師。 <p>実施回数 2,256回、参加児童数 4,218名 参加ボランティア 229名</p> | 決算額（財源内訳） | |
| | 国・県 | 1,630,000 円 |
| | 地方債 | 円 |
| | その他 | 円 |
| | 一般財源 | 1,155,000 円 |
| | 計 | 2,785,000 円 |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|---|----|---|
| 必要性 | 地域の方々がボランティアに入ってくださり、教員の業務の負担軽減が図られた。 | A | 総合評価：A（拡充） 地域住民の積極的な学校支援活動を通して、地域全体で学校を支援する体制づくり、学校活動の充実を図るとともに、地域の教育力の再生・地域コミュニティの活性化を明るくする運動をめざすものである。 |
| 効率性 | 学校と地域の方々との交流が図られ、「地域の子どもは、地域で育てる」機運が高まった。 | A | |
| 有効性 | 宮古高校生の読み聞かせボランティアや、琉球大学生による進路相談・学習支援ボランティアが入り、ボランティアの層が厚くなった。 | A | |

* 評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 学校支援地域本部事業は、地域全体で学校を支援するという事業で、学校教育や生涯学習、地域の教育力の向上が図られ、「地域の子どもは、地域で育てる」機運も高まってきており、今後さらに拡充していく必要がある。 | 総合評価 A (拡充) |
|--|-------------------|

【外部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 「地域の子どもは、地域で育てる」という意味でも、地域全体で学校教育支援に取り組み、学校では教えられない地域の文化や伝統を伝え、体験させる事で、将来、子供たちが継承していけば、地域の活性化にもなると思う。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：下地公民館

【主要施策】

IV 青少年の健全育成

【事務事業名】

交流事業

【目的・計画概要等】

【台湾国際交流事業】
 アジアの国々との結びつきが深まる折、多感な中学生期に外国（台湾）と交流することにより国際的な視野を広げ異国文化や自国（郷土）文化を尊重する態度を養い国際性豊かな人材を育成する。
 予算額：930,000円 宝くじ助成金（オータムジャンボ）

【白川町海・山交流事業】
 児童が自主的、主体的に子ども会活動に参加し、子ども会活動の中での協調性、奉仕の心、環境への気配り思いやりの心等を身に付けさせ、子ども会の活性化と資質の向上をはかるため、気候及び生活環境の異なる者同士が意見を交換し、寝食を共にして交流を深める。
 予算額：899,000円（同上）

【実施状況】

| 【台湾国際交流事業】 平成24年8月2日から8月7日の6日間下地中の生徒10人と台湾（漢口中学）の生徒と交流し国際性視野を広げた。 決算額：910,000円 | 決算額（財源内訳） | |
|--|-----------|-------------|
| | 国・県 | 円 |
| 【白川町海・山交流事業】 平成24年8月8日から8月10日の3日間、白川町の児童生徒20名が来島し、下地地区児童生徒と交流を深めた。 平成25年1月12日から1月15日の4日間、下地小学校の児童10人が岐阜県白川町の児童達と冬場の体験交流を行った。 決算額：898,500円 | 地方債 | 円 |
| | その他 | 1,808,500 円 |
| | 一般財源 | 円 |
| | 計 | 1,808,500 円 |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|---|----|--|
| 必要性 | 【台湾国際交流事業】 異国文化及び国際的な視野を広げることで生徒及び父母等の関心は高い。 【白川町海・山交流事業】 気候及び生活環境の異なることで双方の児童とも交流会に関心は高い。 | B | 総合評価：B（継続） 【台湾国際交流事業】 近年、国際社会の結びつきが深まる中、中学生期に外国の文化及び生活習慣の違いを学び、貴重な体験を生かして、これからの学校生活に大きなプラスになっている。 【白川町海・山交流事業】 双方とも、気候及び生活習慣の異なることを実際に体験し意見を交換することによって、視野を広げると共に子ども会活動の活性化が図られる意義ある交流会である。 |
| 効率性 | 【台湾国際交流事業】 国際性豊かな人材を育成するためには効率性のよい事業である。 【白川町海・山交流事業】 限られた期間内で、実際に見聞し双方とも色々な意見交換し十分に交流会は高められた。 | B | |
| 有効性 | 【台湾国際交流事業】 中学生期に異国文化を体験し、学ぶことで生徒及び父母等からの要望があるため効果は得られている。 【白川町海・山交流事業】 交流会を通して、児童が自主的に子ども会活動に参加するようになり、その中で協調性や思いやりの心が育つ等の効果を得ることが出来た。 | B | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

この交流事業は、旧下地町のとときから行われていた下地小・中学校の児童生徒を対象とした事業で、台湾国際交流事業と、白川町海・山交流事業の二つの事業である。台湾国際交流事業は、異国文化を体験することにより、国際性豊かな人材を育むことを目的としており、白川町海・山交流事業は、国内の気候及び生活習慣の異なる地域間交流で、協調性や思いやりのある心の育成を目的としている。双方とも人間性豊かな人材の育成を目的としており、今後も継続が望まれる。

総合評価

B
(継続)**【外部評価】**

台湾国際交流事業は、多感な中学生期に、異国文化を体験するという事は、貴重な体験であり、国際性豊かな人材を育むいい機会だと思う。白川町海・山交流事業は、気候及び生活習慣の異なる同世代の人達と交流することにより、視野が広がり子供会活動への取り組みに活かしており、将来を担う人材の育成に役立つと思う。

総合評価

B
(継続)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 中央公民館

【主要施策】

V. 社会教育の充実

【事務事業名】

公民館運営事業

【目的・計画概要等】

目的：市民のために、実際生活に即する教育・学術及び文化に関する事業を行い、もって市民の教養向上、健康の増進、情操の純化、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するため、市民のニーズに応じた各種講座を開設している。

計画概要等：

| 公民館名 | 主な講座名 |
|--------|--|
| 中央公民館 | パソコン講座、水墨画教室、犬の飼い方講座、三線講座、クッキング講座等42講座 |
| 城辺公民館 | 手芸講座、親子陶芸教室・舞踊教室、書道講座、フラダンス講座等14講座 |
| 上野公民館 | 絵画教室、いきいきシルバー講座、夏休み子ども陶芸教室、ヨガ講座等13講座 |
| 下地公民館 | 三線講座、タケアラ学校講座、茶道講座、パソコン講座、手芸（チガヤ）講座等11講座 |
| 伊良部公民館 | マングローブ観察、三線講座、琉舞講座、パソコン講座、絵画教室、着付講座等8講座 |

【実施状況】

| 公民館名 | 講座数 | 回数 | 募集定員 | 受講者数 | 決算額 | 決算額（財源内訳） | |
|----------------------------|-----|-----|-------|-------|------------|-----------|--------------|
| | | | | | | 国・県 | 円 |
| 中央公民館 | 42 | 260 | 879 | 4,133 | 32,994,889 | 地方債 | 円 |
| 城辺公民館 | 14 | 103 | 250 | 1,552 | 14,206,708 | | |
| 上野公民館 | 13 | 72 | 195 | 1,016 | 6,323,879 | その他 | 円 |
| 下地公民館 | 11 | 79 | 210 | 1,140 | 7,427,168 | | |
| 伊良部公民館 | 8 | 50 | 112 | 525 | 8,697,520 | 一般財源 | 69,650,164 円 |
| 合計 | 88 | 564 | 1,646 | 8,366 | 69,650,164 | | |
| *中央公民館には久松・西原・下崎3地区の公民館を含む | | | | | | 計 | 69,650,164 円 |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|---|----|--|
| 必要性 | 地域に根付いた公民館であり、市民の教養の向上、健康の増進、地域交流の場としてニーズは高い。 | B | 総合評価：B（継続） 各公民館とも、生涯学習の拠点として市民のニーズに応じた各種講座、教室、サークル活動の充実に努め、今後も質の高い公民館講座の拡充を計画し、新中央公民館へ活動の場を移管するよう努めていきたい。 |
| 効率性 | 公民館主催講座の現況予算での活動としては、ベストであるが、講座担当職員の負担が大きい。 | C | |
| 有効性 | 講座から自主的にサークルを結成し、学習の継続を続けているので、効果は得られている。 | B | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

生涯学習の振興が叫ばれる今日において、生涯学習の拠点として各公民館は重要な施設であり、各公民館で開催される各種講座や教室、サークル活動は、地域のニーズに対応しており、市民にも好評である。今後も各公民館の果たす役割は大きく、地域の生涯学習の場として更なる講座内容の充実を図る必要がある。

総合評価

B
(継続)**【外部評価】**

各公民館共、地域性を考慮しての講座等も開設しており、市民の生涯学習の場として、又、講座を通して、相互コミュニケーションの場としても必要である。課題として、男性の参加者が少ない、講座担当職員の負担軽減等を考える必要がある。

総合評価

B
(継続)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：宮古島市立図書館

【主要施策】

V. 社会教育の充実

【事務事業名】

1. 図書館の基本サービス 2. 行事の充実 3. 島ぬ宝育成情報支援プロジェクト

【目的・計画概要等】

1. 図書館サービスの充実

親切丁寧な貸出サービスを基本に、レファレンス（調べ物）リクエスト（収蔵外資料）に対する対応を迅速にし、市民の知的要求に応える体制を強化する。市民のニーズに沿った資料、地域資料の収集を更に充実させ市民に役立つ図書館の形成に取り組む。

居住地、生活・身体等様々な理由で来館できない市民へのサービス提供のため移動図書館車ステーションを増やし各利用者の生活形態に沿ったサービス提供に心掛ける。

2. 図書館行事の充実

①おはなし会（平良館・城辺館）

時事、季節を反映した読み聞かせ等を通して豊かな情操を育みながら、早期の読書習慣の確立を図る。

②学級招待（平良館）

園児・児童を招いて館内施設の利用方法や図書の紹介、読み聞かせ等を実施し図書館を生活環境の一部として親しんでもらう。

③図書館大使（平良館）

利用の低下が懸念される中高年生から大使を募集し、図書館運営の改善意見を求めた。また、新聞を作成し広報することで大使として図書館と同世代のパイプ役となる活動を展開し、利用者増に貢献した。

④サマースクール（城辺館）

読書後の感想を絵を通して表現する方法を学び、今後の読書活動拡大に繋げる。

⑤こどもシアター・クリスマス会（平良館・城辺館）

読書週間関連事業及び季節行事として、エプロンシアターやパネルシアター等の保育資料の他に指人形劇等、多彩な演目を通して図書館資料の利用促進を目指す。

⑥郷土史講座

郷土史を各テーマ毎に講座を実施する。地元の郷土史研究者たちの手作り講座。

3. 島ぬ宝育成情報支援プロジェクト

①市生活福祉部健康増進課、児童家庭課等の既存事業で幼児期早期読書環境確立の意義を説明し、布絵本などの資料紹介を実施。

②就学時前園児を対象に、移動図書館車体験試乗会を実施し選書や読書の楽しさを体験させる。

【実施状況】

| | 平良図書館 | 北分館 | 城辺図書館 |
|----------|---------|-------|--------|
| 登録率 | 35.5% | | |
| 貸出冊数 | 130,351 | 2,257 | 35,824 |
| 利用者数 | 49,435 | 8,044 | 15,991 |
| レファレンス件数 | 1,518 | 29 | 374 |
| リクエスト件数 | 275 | 5 | 89 |

※平成24年度の3館の貸出総数は、168,432冊で前年度対比した場合12,465冊増加した。約8%の伸びである。特に著しい伸びを示したのは移動図書館車で（みらい号Ⅱ世22%・夢の光号28%）で、地域へ各イベントへと積極的に運行し認知度を高めたことが大幅増加に繋がった。この結果登録者数も前年度対比で2.7%上昇した。

| 決算額（財源内訳） | |
|-----------|---------------|
| 国・県 | 円 |
| 地方債 | 円 |
| その他 | 円 |
| 一般財源 | 112,507,786 円 |
| 計 | 112,507,786 円 |

| | 平 良 図 書 館 | | 北 分 館 | | 城 辺 図 書 館 | |
|------------------------|-----------|-------|-------|------|-----------|------|
| | 回数 | 対象人数 | 回数 | 対象人数 | 回数 | 対象人数 |
| おはなし会 | 38 | 730 | | | 10 | 278 |
| 子どもシアター・おはなしひろば | 1 | 75 | | | 1 | 35 |
| 移動図書館おはなしキャラバン | 1 | 67 | | | | |
| へいわについて・平和資料展 | 1 | 58 | | | 6 | 48 |
| 七夕集会 | 1 | 40 | | | | |
| 宮古島生涯学習フェスティバル | 1 | 67 | | | | |
| クリスマス会 | 1 | 202 | | | 1 | 149 |
| 節分 | 1 | 60 | | | | |
| 学級招待 | 6 | 183 | | | 1 | 17 |
| DVD上映会 | 4 | 65 | | | | |
| こども図書館大使 | 4 | 10 | | | | |
| 郷土史講座 | | | 9 | 174 | | |
| サマースクール | | | | | 2 | 145 |
| 夏休みワクワクシアター | | | | | 1 | 25 |
| 一日図書館員 | | | | | 1 | 2 |
| 移動図書館体験試乗貸出会 | 4 | 127 | | | | |
| 島ぬ宝育成情報支援プロジェクト | 6 | 636 | | | | |
| 職場体験学習（インターシップ・ジョブシフト） | 12 | | | | | |
| 計 | 81 | 2,320 | 9 | 174 | 23 | 699 |

※毎週（月）のおはなし会の継続で認知度が増すに伴い子育て世代の利用数が大幅に伸びている。また、市福祉保健部や生涯学習部などの既存事業で読書の意義、早期習慣定着の効用などを紹介しており、館所蔵の多彩な資料を家庭内などで活用することを推奨し「島ぬ宝育成情報支援プロジェクト」の推進に心掛けた。また、各行事のイベントへ移動図書館車を積極的にステーションさせ市民の図書館利用の機会と範囲を広げた。利用者が来館しやすい図書館と利用者の元へ出向く両面からの運営に努力した。

【担当者説明】

| 区 分 | 説 明 | 評 価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|---|-----|---|
| 必要性 | 平成24年度の貸出総冊数を単純に人口割りした場合、約3.1冊となる。平成22年度の2.2冊と比較すればその伸びは大きく、県平均の3.3冊に並ぶ勢いとなっておりニーズの高さが伺える。公共図書館として市の更なる蔵書が必要。 | A | 総合評価：A（拡充） 図書館主業務の貸出の伸びが大幅に増加した要因の1つは、移動図書館車にあり、来館せずに資料入手の手軽さが利用者の生活環境に合致した。 また、レファレンス（調べ物）等のサービスの利便性と職員の的確な指導で新たな図書館利用法が市民に浸透してきた。 広報、マスコミ取材もきめ細やかに対応し、イベント会場でのサービス提供などを年間を通して実施した結果利用増に繋がった。特に、平良館では、資料回転率（図書資料が効率よく貸し出されているか・利用者のニーズに沿った資料かを示す基準）が県内トップとなり、図書館法第3条に基づく、利用者の希望に添った資料を所蔵していることが照明された。 |
| 効率性 | 沖縄県内公共図書館の資料回転率（資料が効率よく貸し出されているか）では、平良館は県内トップを誇るが、城辺・北分館が県平均を下回るため今後は、以下2館の業務見直しが重要となる。 | A | |
| 有効性 | 移動図書館車の利用が大幅に伸びた。平良館では、新ステーションの開拓に取組み市民の認知度を高めた。「必要な情報をその場で」をコンセプトに市民側へ出向く図書館に高い評価を得た。 | A | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 図書館業務の貸し出しの伸びが大幅に増加しており、その要因として移動図書館車の利用があげられる。また、利用者のニーズに沿った資料の所蔵が利用者増に繋がっており、今後とも、公共図書館として市の更なる蔵書が求められる。 | 総合評価 A (拡充) |
|--|-------------------|

【外部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 図書館の資料回転率の高い事は、利用者のニーズに沿った資料の所蔵が多い事だと思う。本を読む習慣を身に付けるのは、小学校低学年までに身に付ける必要があり、その児童を対象に各図書館行事を充実させる必要がある。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名： 市民スポーツ課

【主要施策】

VI. スポーツの振興

【事務事業名】

各種スポーツ教室事業

【目的・計画概要等】

市民が気軽にスポーツに親しむ環境づくりと健康の保持増進及び体力の向上をめざして、各種スポーツ教室を実施した。

【実施状況】

| | | 決算額（財源内訳） | |
|--------|--|-----------|-----------|
| | | 国・県 | 円 |
| 12/7.8 | 少年サッカー教室（協力/FC琉球、宮古サッカ協会）…対象/小学生(100名) | 地方債 | 円 |
| 2/17 | 野球教室（協力/日本通運）…対象/中学生(78名) | その他 | 円 |
| 2/21 | 卓球教室（協力/宮古卓球連盟）…対象/小中高生(38名) | 一般財源 | 129,500 円 |
| 3/17 | ラグビー教室（協力/NEC、宮古ラグビー協会）…対象/小中高一般(50名) | 計 | 129,500 円 |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|---|----|---|
| 必要性 | 市民の健康・体力づくりを図ると共に、教室を通して競技力の向上をめざすため。 | A | 総合評価：A（拡充） 「子どものスポーツ教室」はプロチームのキャンプや事業展開とタイアップして実施し、児童生徒にとって大変貴重な体験となっている。なお、実施していない競技に関しては、各競技団体とも協議しながら実施に向けて検討していく。 「成人のスポーツ教室及び高齢者のスポーツ教室等」については、他市と比べて取り組みが弱い現状であり、各年齢や体力に応じてスポーツに取り組める環境づくりに努めていきたい。 |
| 効率性 | プロチームのキャンプ時期や事業とタイアップした取り組みにより予算削減。 | A | |
| 有効性 | 一流のコーチやトップアスリートに直接指導されることにより、メンタルやモチベーションのアップにとっても効果的である。 | A | |

*評価及び総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 「子どもスポーツ教室」は、プロチームのキャンプ等を通して実施しており、子ども達に貴重な体験となっているが、まだ、競技数が少ないように思われる。また、「成人のスポーツ教室及び高齢者のスポーツ教室」は、取り組みが弱い状況にあり、今後は、実施に向けた体制づくりの強化が望まれる。 | 総合評価 A (拡充) |
|--|-------------------|

【外部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 子供スポーツ教室は、プロの選手から教わる事で、子供たちのモチベーションのアップにつながると思う。親も、家で子供に指導する場合、ある程度知識が必要ですので、親子参加型のスポーツ教室もよいと思う。また、年齢や体力に応じて楽しめる生涯スポーツの普及促進への取り組みもお願いしたい。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

VII 文化の振興

【事務事業名】

文化財保護活動事業

【目的・計画概要等】

平成17年の合併後、宮古島市の抱える指定文化財（国、県、市）は県内最多の150件となり、また、その他指定候補として貴重な文化財も数多く所在している。
これらの文化財の保護を広く周知するため、環境整備や保存活用管理業務、文化財保護審議会等の運営、各管理団体等への指導、学校及び一般市民への文化財に関わる情報提供などを行う。

【実施状況】

| | | |
|--|--------------|--------------|
| ○宮古島市文化財保護審議会の開催 全体会議・・・4回 専門部会・・・1回 ○新規指定の状況 国指定名勝及び天然記念物「八重干瀬」 国登録有形文化財「旧西中共同製糖場煙突」 市指定史跡「大立大殿みゃーか」 市指定天然記念物「ミヤコジマソウ」 市指定天然記念物「ミヤコジマハナワラビ」 | 決算額（財源内訳） | |
| | 国・県 | 円 |
| | 地方債 | 円 |
| | その他 | 円 |
| | 一般財源 | 15,598,759 円 |
| 計 | 15,598,759 円 | |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|---|----|--|
| 必要性 | 開発行為等に係る文化財有無の確認及び各種発掘調査、諸手続きなど、文化財の適切な保存を図る。 | A | 総合評価：A（拡充） 本市における指定文化財の件数は150件と県内でも最多であるのに対し、それに対応する担当係の体制は整っていないのが現状です。文化財の保護は、物件の保存だけでなく、その本質的価値を明らかにするための調査と公開等の活用を併せて行うのが原則です。新規の文化財指定が多数出ている中で、市民の文化財に関する関心も高まり、文化財保護に対するニーズも増加しています。また、県内でも文化財保護の成果が飛躍的に伸びている本市は、文化庁や県の文化財担当部局からも注目されています。主要施策達成のため、文化財保護に係る体制を見直す必要があると考えます。 |
| 効率性 | 文化財の保護のみならず、その活用方法について、適切な管理を図る。 | A | |
| 有効性 | 調査等の成果として、新規の指定物件を出すことで、文化財保護に対する市民の意識向上を図る。 | A | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|--|-----------------------|
| 指定文化財が県内でも最多の150件であり、環境整備や保存活用管理業務、さらに開発行為などによる発掘調査や諸手続きなど、文化財保護活動事業は多岐にわたり、担当職員も多忙を極めている。また、新規の文化財指定も多数あがっており、文化財保護に係る体制の見直しが求められる。 | 総合評価 A （拡充） |
|--|-----------------------|

【外部評価】

| | |
|---|-----------------------|
| 本市における文化財保護事業は、合併後担当者及び関係者の努力により指定文化財の件数が県内で最多となっており、文化庁や県の文化財担当部局からも高い評価を得ている。しかしながら近年の公共・民間による開発行為は増加しており、文化財の調査発掘、保存管理は急を要するものである。今後は担当者の体制を整え、宮古島の未来へのメッセージである本事業を推進して頂きたい。 | 総合評価 A （拡充） |
|---|-----------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

VII 文化の振興

【事務事業名】

市史編さん事業

【目的・計画概要等】

平成17年10月「宮古島市」が誕生、改めて宮古圏域全体を対象に5年計画で琉球・沖縄史、日本史も視野におさめ、教育現場で指導教材としても活用できる「宮古島市史」が想定されています。今日までの市民の歴史を記録し、その発展過程を解明するために、平良市史（10巻）、城辺町史（5巻）、多良間村史（全6巻）、及び伊良部村史（1巻）、下地町誌、上野村誌等が編さん事業や町村制施行記念事業として取り組まれてきました。
今回の「宮古島市史」は、こうしたこれまでの成果を踏まえるとともに旧市町村史編さん事業の過程において残された課題や、新たに発掘された史資料を加えて編集発行するものです。

【実施状況】

| | | |
|--|-----------|-------------|
| ○編さん委員会及び小委員会の開催 編さん委員会・・・2回 小委員会・・・3回 | 決算額（財源内訳） | |
| | 国・県 | 円 |
| | 地方債 | 円 |
| | その他 | 円 |
| | 一般財源 | 7,887,001 円 |
| | 計 | 7,887,001 円 |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|--|----|---|
| 必要性 | 一般に「沖縄史」というとき、往々にして首里、那覇を中心とした沖縄本島に限定され宮古・八重山は欠落しがちです。宮古島市史編さん事業のもつ意義がここにあります。 | A | 総合評価：A（拡充） 今回の「宮古島市史」は、こうしたこれまでの成果を踏まえるとともに、旧市町村史編さん事業の過程において残された課題や、新たに発掘された史資料を加えて編集発行されるものです。 また、市民に親しみやすい宮古の歴史を編さんし、郷土への誇りを育む意義もあります。 宮古島市史編さんは、あすの宮古づくりの市民のよき道標となることを目指しています。 |
| 効率性 | 宮古島市史とはいえ、多良間村も含めた宮古郡全体を視野に収め沖縄全域のひいては、日本の歴史の中で欠くことのできない重要な構成部分として位置付けてあります。 | A | |
| 有効性 | 宮古圏域全体を編集の対象とし、広く沖縄全域、日本全国を視野に編集され、貴重な史料となります。 | A | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 宮古島市が誕生して、平成23年度に「宮古島市史 第1巻（通史編）」を発刊しており、今後第2巻（通史編）、第3巻（自然編）と発刊する準備をしている。「宮古島市史」として宮古圏域全体の対象とした市史編集は、貴重な史料であり、今後も宮古島市史編さんの拡充が望まれる。 | 総合評価 A （拡充） |
|--|-------------------|

【外部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 今後の市史編さん事業計画で「宮古島市史」第1巻通史編の刊行は貴重な史料の刊行事業として評価できるものである。なおその通史編さんにおいて、旧市町村から引き継いだ各公文書等は、その基盤をなすものであり、また貴重な文化財産でもある。したがって、市史編さん室と市総務課が連携し、散逸しないようにその保存に努めるとともに、きちんと整理し、市民（一般）の使用に供するよう検討努力してもらいたい。発刊の準備を進めている第2巻（祭祀編）と第3巻（自然編）の作業に関しても、専門的な人員の配置を充実させ、編集発行して頂きたい。 | 総合評価 A （拡充） |
|--|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：宮古島市総合博物館

【主要施策】

| |
|-----------|
| VII 文化の振興 |
|-----------|

【事務事業名】

| |
|-----|
| 企画展 |
|-----|

【目的・計画概要等】

| |
|--|
| 文化の振興を図ることを目的として、歴史・民俗・芸術・自然科学に関する企画展を開催し、常設展示と併せて市民に広く紹介する。 |
|--|

【実施状況】

| | | |
|---|-----------|-------------|
| 第21回企画展「時代によってスタイルもかわる 祖先のすまい展」 平成24年4月25日（水）～5月20日（日）（入館者：1,300人） 第22回企画展「宮古のマングローブ環境とそこに暮らす生き物たち」 平成24年7月11日（水）～9月2日（日）（入館者：1,799人） 第23回企画展「現代宮古の作家たちⅨ」 平成25年2月23日（土）～3月24日（日）（入館者：1,342人） 特別展示 慰霊の日関連特別展示 「宮古のあゆみ～戦争から復帰まで～」 平成24年6月20日（水）～6月29日（金）（入館者：668人） 特別展示 「第2回高校生学芸員企画展」 平成24年12月15日（土）～平成25年1月13日（日）（入館者：632人） | 決算額（財源内訳） | |
| | 国・県 | 円 |
| | 地方債 | 円 |
| | その他 | 円 |
| | 一般財源 | 2,590,000 円 |
| | 計 | 2,590,000 円 |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|---|----|--|
| 必要性 | 企画展は毎年度、歴史・民俗・自然科学等の各分野にテーマを設け、館内外の重要な資料を見ることのできる場として来館者からも市民のニーズは高いといえる。 | A | 総合評価：A（拡充） 企画展は博物館の主業務で「資料の収集・保管」、「展示・教育」、「調査・研究」を総合的に網羅する事業で、毎年度ごとに宮古島の歴史、民俗、芸術、自然科学の各分野のテーマを設けた企画展を年3回実施。その他、特別企画を3回計6回実施している。また、市町村では県内唯一の総合博物館で宮古島を知るには重要な施設となっている。 |
| 効率性 | 離島であるが故に市外からの資料を借用・展示する際の輸送費用はかかるが企画展や特別展等は規模や内容、入館者数から見ても、その効率性は高いといえる。 | A | |
| 有効性 | 企画展及び特別展の開催中は、学校を始め各種団体見学が多く来館するなど躍的に伸びることから、その効果は非常に大きいといえる。 | A | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 宮古島の歴史、民族、芸術、自然科学の各分野のテーマを設けた企画展は、宮古島を知る貴重な企画展であり、今後も拡充していくことが望まれる。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

【外部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 博物館の使命は、地域の自然・歴史・民俗・美術工芸等の史料を収集、保管するとともにこれを調査研究し、教育普及活動としての展示活動で一般の教育に供することである。したがって、展示活動としての企画展の開催はこうした点で評価できるものである。また、こうした活動が芸術活動等の文化活動を活性化していくことも大きな博物館としての使命である。なお、企画展や特別展を含め年6回の開催となっているが、本予算額ではこれを達成するには十分ではないように考えられるので、展示予算の拡充が必要である。さらに充実した展示活動を行うためには、まず資料収集をはじめ、資料の調査研究が不可欠である。そのためにはこうした予算の企画展実施前年度計上分と合わせて展示予算に計上していくのが望まれ、その回数も自然・歴史・民俗・美術工芸等各分野バランス良く開催していくことが望まれる。さらにその目的を達成する為には、各分野担当の学芸員の配置が今後必要不可欠ではないかと思えます。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名： 宮古島市総合博物館

【主要施策】

| |
|-----------|
| VII 文化の振興 |
|-----------|

【事務事業名】

| |
|------------------|
| 収蔵品台帳整備（データベース化） |
|------------------|

【目的・計画概要等】

| |
|--|
| 本市の博物館には、8,000点に及ぶ資料が収蔵されており、これらの幅広い活用を図るため収蔵資料の整理データベース化し目録等を作成、貴重な資料の半永久的な保存を含めデジタル化した情報の共有化を図る。 |
|--|

【実施状況】

| | | |
|---|-----------|-------------|
| 博物館収蔵品図録作成事業 1 報酬費（嘱託職員2名）2,106,000円 2 印刷製本費（図録等作成）683,000円 3 委託費（剥製・骨格標本）477,000円 | 決算額（財源内訳） | |
| | 国・県 | 2,614,000 円 |
| | 地方債 | 円 |
| | その他 | 円 |
| | 一般財源 | 652,000 円 |
| | 計 | 3,266,000 円 |

【担当者説明】

| 区 分 | 説 明 | 評 価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|--|-----|---|
| 必要性 | 本館の所有する常設展示物及び文化財の保護は重要課題である。目録等の作成により収蔵資料をデータベース化し、デジタル化することで、場所、時間に制限されることなく幅広い情報の提供、共有につながり貴重な資料の半永久的な保存が可能となる。 | A | 総合評価：A（拡充） 収蔵品の整理及び分類に必要な資料等を作成し併せてデータベース化の作業を行う専門職員2名を採用「自然資料編」400冊の目録を製本、今後の研究活動や教育の場で更に活用される。 |
| 効率性 | 来館者及び問合せに対し敏速に対応ができるなど、新しい情報の提供がいつでも行われる。 | A | |
| 有効性 | 最新の情報を伝えることで、本市をPRし観光振興に繋げられる。また、市民にも文化財をより一層知ってもらえる場になる。 | A | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 膨大な資料の収蔵品台帳整備は、データベース化し、デジタル化することで、場所、時間に制限されることなく幅広い情報の提供を行うことができ、宮古島の観光振興に多いに寄与できるものと期待できる。また、貴重な史料の半永久的な保存を含め、研究活動や教育の場で活用できるなど、幅広くその効果が期待できる。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

【外部評価】

| | |
|--|-------------------|
| 今日の情報化社会の中で、博物館収蔵資料をデータ化し提供を行うことは、市民(一般)が共有し教育や観光等で生かせる取り組みであり、評価できるものであります。宮古島に関するあらゆる情報を集約記録（データベースやアーカイブ化）し、「情報センター」としての役割や、自然環境や文化遺産の調査研究と保全等に係わる「研究センター」としての役割を付加していく事で、博物館の機能をさらに向上させるとともに、これを観光産業や教育等にリンクして生かし、地域の人づくりや産業振興等に寄与できるのではないかと考えます。こうした取り組みと合わせて、自然サテライト（大野山林や島尻のマングローブ林、東平安名崎など）や歴史サテライト（仲宗根豊見親の墓など）として整備し、これらをつないで博物館の将来像を見据える際、接続可能な地域を繋ぐ「島まるごとミュージアム」（エコミュージアム）構想にシフトし、こうした博物館の機能を向上させる方向性を築いていってはどうだろうか提案させて頂きたい。 | 総合評価 A (拡充) |
|--|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育総務課

【主要施策】

VIII 教育行政の充実・強化

【事務事業名】

宮古島市教育委員会の活動

【目的・計画概要等】

宮古島市における様々な教育課題を解決し、適切な教育行政の運営に資することによって、教育の振興を図ることが教育委員会活動の目的です。具体的には月1回の定例会、必要に応じて臨時会を開催しており、主に教育に関する基本的な方針や規則・要綱等の制定等を決定します。今後も、積極的に地域の実情や意向を把握し、教育施策の展開を図ります。

【実施状況】

| | | |
|--|-----------|-------------|
| 会議：定例会12回、臨時会5回、教育行政推進連絡会議2回 学校訪問45回（入学式・卒業式・学校訪問等） 研修会13回（県教委連理事会、宮古地区研修会等） 沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会・研修会（宮古地区開催） 学校規模適正化関係：4回（勉強会） その他11回（教育の日・成人式等） | 決算額（財源内訳） | |
| | 国・県 | 円 |
| | 地方債 | 円 |
| | その他 | 円 |
| | 一般財源 | 3,043,891 円 |
| | 計 | 3,043,891 円 |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|--|----|---|
| 必要性 | 地方教育行政の組織及び運営に関する法律により組織されている。 | A | 総合評価：A（拡充） 学校訪問及び県主催又は宮古地区の研修会、学校規模適正化勉強会等、積極的な活動をしており、宮古島市、圏域の教育行政の諸課題等に取り組み、教育行政の発展に寄与している。 今後は、学校規模適正化や調理場民間委託等の諸課題に関する先進地視察等を行い視野を広める必要がある。 |
| 効率性 | 各小中学校の各種行事（入学式・運動会・卒業式等）や県主催研修会等に参加することで宮古島市の教育行政の発展のために積極的な活動をしている。 | A | |
| 有効性 | 学校規模適正化等教育行政に関わる諸課題等を各委員で議論・協議することで解決策を見いだしている。 | A | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 教育行政に関わる職員の研修や視察は資質向上のためにも必須の事業である。本市の課題解決や委員会の活性化のための視点や取り組みの充実を図るためにも先進地区の視察研修の充実を図るための予算化が必要だと考える。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

【外部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 今年度は本市に於いて県全域の教育委員会が開催され、より一層の活動の重要性を確認し合った事と思います。開催地としての多くの収穫並びにご苦勞に感謝申し上げます。また、本会活動も多岐多様な数多い会合を持って、教育行政の充実強化に資していることにも深甚な謝意を表します。全国的な趨勢として市町村合併や少子化に伴う学校統廃合は地域や人々の活力発展に寄与するものと思います。広い視野と現状を見据え、子どもから大人まで幅広く市民の在り方・生き方に今昔を吟味してご尽力いただきたい。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育総務課

【主要施策】

教育行政の充実・強化

【事務事業名】

教育委員会広報誌発行

【目的・計画概要等】

- 目的
市教育行政に対する市民の理解と協力を推進することを目的に広報誌を発行する。
- 計画概要
 - 1 名称 ゆいのひろば
 - 2 発行部数 1回の発行あたり392部
 - 3 発行回数 全4回（9月・10月・12月・2月）
 - 4 配布場所 各庁舎、各図書館、各公民館、総合博物館、
※市立幼稚園、小・中学校には各校へ1部ずつ配布。市HPでも掲載。

【実施状況】

初号では「教育委員会」に関する概要を紹介し、第2号からは市教委事業などを特集に取り上げて周知・推進のために情報発信を図った。また、小中学校のユニークな取組を紹介する「パニパニスクール」と市文化財を紹介する「文財を巡る」の連載コーナーを設けるなど、発行内容の充実に努めた。

◆特集

- 第2号「学校規模適正化について」
- 第3号「宮古島市教育研究所ってどんなところ？」
- 第4号「フューチャースクール推進事業・学びのイノベーション推進事業
「21世紀にふさわしい学校教育の実現をめざして
ー下地中学校で実証研究」

決算額（財源内訳）

| | |
|------|---------|
| 国・県 | 円 |
| 地方債 | 円 |
| その他 | 円 |
| 一般財源 | 7,350 円 |
| 計 | 7,350 円 |

【担当者説明】

| 区分 | 説明 | 評価 | 担当者（主管課）評価・コメント |
|-----|--|----|---|
| 必要性 | 「開かれた教育行政」を目指して、明確に市民へ情報発信・周知していくためには、重要なツールである。 | A | 総合評価：A（拡充） 「開かれた教育行政」を目指して、市教育委員会の事業及び取組など「教育」に特化した情報を市民に親しみやすく発信する広報誌づくりができた。しかし、発信した情報を多くの市民の方に利用しやすくするためには、発行部数や配布場所の増加、刊行内容の充実に努めなければならないと考える。 |
| 効率性 | 編集製本までを課内で担当したが、発行部数を増加させる場合は印刷製本を委託する方が望ましい。 | A | |
| 有効性 | 教育行政の業務等を広報誌を通じて広く周知・理解していただき、より親しみやすい教育行政の遂行が期待できる。 | A | |

*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

| | |
|---|-------------------|
| 情報発信の手段として、HPの充実とともに広報誌の発刊に取り組んできた。しかし、広報誌への声や要望等を教育行政で収集するまでには至っていない。一方的な情報発信ではなく、双方向の情報交換の場として活用できるような工夫を今後図っていきたい。 | 総合評価 A (拡充) |
|---|-------------------|

【外部評価】

| | |
|--|-------------------------------|
| <p>広報誌「ゆいの広場」を一読するだけでイベントに関する情報、現在教育委員会が取り組んでいる事業について手に取るようにわかります。パニパニスクールでは、子供達の学校での活躍が伝わってきますし、文化財の紹介や季節に応じたの話題等、内容が豊富で充実しています。しかし、開かれた教育行政を目指し明確に市民へ情報発信、周知してもらうには発行部数が少なく、配布場所も行政機関と教育関係機関だけでは十分とは言えません。市のHPにアクセスできない市民への情報がいきわたる方法として、市の広報誌と同様増刷し全家庭に配布することが望ましいと考えます。そのことがこの事業の目的である市の教育行政に対する市民の理解と協力を得られるのではないかと考えます。そして、今後の教育行政としてのさまざまな事業の進め方や、ビジョンを紹介することができ、市民との情報交換のツールとしての活用に繋がる重要な事業だと考えます。</p> | <p>総合評価</p> <p>A (拡充)</p> |
|--|-------------------------------|